令和３年度

私立学校若手教員（初任者等）全国研修会
私立学校中堅教員研修会

（東日本会場・西日本会場）

実　施　報　告

主催　一般財団法人日本私学教育研究所
後援　日本私立中学高等学校連合会／日本私立小学校連合会

研修のねらい　激動の時代に耐えるレジリエントな私学教育とは？

昨年来の新型コロナウイルスの流行は未だに収束の気配を見せず、依然として世界中に大きな影響を与え続ける中、私立学校は、昨年2月の休校要請以来、「児童生徒の安心安全を守る」「学びを止めない」を合言葉に困難に立ち向かい、約１年半、教育活動を維持してきた。しかしここで大切なのは、「見慣れた光景を復活させること」に安住するのではなく、これまでの経験の中から“10 年先の未来”を読み取り、今後の予測不能な出来事に直面したときへの備えとして、常に怯むことなく最善策を求めてゆく逞しさ（レジリエンス）を養うことではないかと考える。

今年度の「私立学校若手教員(初任者等)全国研修会」と「中堅教員研修会」は、昨年度に引き続き同日・同会場で開催し、コロナ禍では教科・学年といった枠組みを超えた教員間の連携・協働が事態打開の大きな原動力となったことから、さらなるブラッシュアップを図り、教育活動とICTのあり方を考察しながら、「若手」「中堅」両者が講義とグループワークを通じて「レジリエントな私学教育」の姿を描くことに挑戦する機会とした。

実施概要

		若手教員（初任者等）全国研修会	中堅教員研修会
東日本会場	会期	令和３年 10 月 15 日（金）～10 月 16 日（土）	
	会場	主婦会館プラザエフ（東京都千代田区六番町 15）	
	参加人数	22 名	21 名
西日本会場	会期	令和３年 10 月８日（金）～10 月９日（土）	
	会場	スペースアルファ三宮（兵庫県神戸市中央区三宮町 1-9-1　三宮センタープラザ東館６階）	
	参加人数	22 名	20 名
参加対象		◎都道府県私学協会に加盟する全国の私立小学校・中学校・高等学校・中等教育学校に在職する若手教員（経験 5～10 年程度）・中堅教員（経験 11～20 年程度）で学校長が推薦する者。	

基本日程

時刻	9 00	30	45	10	11 00	15	12	15	13	15	14	45	15	16 05	30	50	17 0
1日目		受付	開会式	研修1		休憩	研修2			休憩（昼食）	研修3						解散
2日目		研修4						休憩（昼食）	研修5					休憩	閉会式		解散

研修日程

	時間	プログラム	
1日目	9:00	受付	
		若手教員（初任者等）全国研修会・中堅教員研修会合同	
	9:30	開会式・諸連絡 1.開会 2.主催者挨拶　平方邦行・一般財団法人日本私学教育研究所　所長 3.関係者紹介 4.閉会	
	9:45	研修 1　講義 「私学人の心得（在野の精神を貫け！）」 講師：平方　邦行　（一般財団法人日本私学教育研究所　所長）	
	11:00	休憩	
	11:15	研修 2　実践報告 「コロナ禍における私学の取り組み」 講師：田原　俊典　（修道中学高等学校　校長）	
	12:45	休憩・昼食	休憩・昼食
		若手教員（初任者等）全国研修会	中堅教員研修会
	13:45	研修 3　講義・グループワーク 「チーム学校と若手教員の役割」 講師：広石　英記　（東京電機大学　副学長）	研修 3　講義・グループワーク 「著作権をめぐる私学の課題 －ICT 活用教育と入試問題－」 講師：大和　淳　（福岡教育大学教育学部　教授）
	17:00	解散	
2日目	9:00	研修 4　講義・グループワーク 「主体的・対話的で深い学びとICT」 講師：今野　貴之（明星大学教育学部准教授）	研修 4　講義・グループワーク 「チーム学校と中堅教員の役割」 講師：広石　英記　（東京電機大学副学長）
	12:15	休憩・昼食	休憩・昼食
		若手教員（初任者等）全国研修会・中堅教員研修会合同	
	13:15	研修 5　講義・グループワーク 「レジリエントなスクール・マネジメントへの挑戦」 ファシリテーター：広石　英記　（東京電機大学副学長）	
	16:05	休憩・アンケート記入	
	16:30	閉会式 1．開会 2．講評　〈東〉須藤　勉（東京私学教育研究所参与）〈西〉西山　啓一（学校法人同志社常務理事） 3．修了証授与 4．閉会	
	16:50	解散	

私立学校〔若手教員研修・中堅教員研修〕運営委員

東日本	運営委員長	須藤　勉	東京私学教育研究所参与
	運営委員	森　健介	順天堂大学国際教養学部講師
		住川明子	跡見学園中学高等学校教諭
		安田　誠	箕面自由学園中学校教諭
西日本	運営委員長	西山啓一	学校法人同志社常務理事
	運営委員	片山　豊	大阪夕陽丘学園高等学校校長
		田部雅昭	梅花高等学校教頭
		北田京子	神戸女学院中学高等学部教頭
		井上志音	灘中学高等学校教諭

開会式

両研修会合同の開会式では、主催者挨拶として、平方邦行・当研究所所長より「コロナに影響を受けた 1 年半になるが、新しい状況に対峙すると過去の経験は活かされない。教員生活を続けていくには、常に創造的に物事を解決していく力がなければならない。今後子どもたちがどのような世界で生きていくのかを考え、学びをサポートしていける教員になってもらいたい、との思いで当研究所は研修会を開催してきた。初任者研修地区研修会は、昨年度は15地区いずれも開催中止となったが、今年度は 2 地区がオンラインで開催した以外は、すべて対面研修を実施できた。やはり、児童生徒と教師の信頼関係の構築は、オンラインのみでは完結しない。但し、今はオンラインを全く無視する時代ではなく、そういった技術を駆使し、工夫して教育活動を行っていかなければならない。本研修会は濃密な内容だが、若手と中堅が合同あるいは別々に研修を行う異例のスタイルで、様々な発見があると思う。ぜひ真剣に参加してほしい」とメッセージが送られた。

研修1 （若手・中堅合同）講義「私学人の心得（在野の精神を貫け!）」

（講師／平方邦行・一般財団法人日本私学教育研究所所長）

平方邦行・当研究所所長より、今後グローバル化が進むと、哲学や思想が異なる人々と協働することが想定されるため、我々とは異なる文化や哲学を理解していく必要があるとして、フランスの彫刻家ロダンの「考える人」や弥勒菩薩像を例に、東洋と西洋の哲学の違いを説明された。また、バカロレア試験の問題を引用して、フランスでは長年にわたり、物事を多角的に深く考え、論述する力が問われていることが紹介された他、1989 年のベルリンの壁崩壊を例に、1689 年以来、100 年ごとに世界で起こってきたことを俯瞰し、故に 2089 年を見据えて教育を行っていかなければならないと述べた。

また、「未来をどう考えるかは教育において非常に大切で、そのためには過去（歴史）もしっかり理解する必要がある」とし、最後に「どのような教師を目指しているか、どのような授業をしているか（双方向型か／一方通行型か）、魅力ある教師・授業とはどういったものか、未来社会を考えたことはあるか、無いとしたら今からでも、その社会は誰がつくるのか、それらを真剣に考え、整理し、自ら進めていってほしい」と講義を締め括った。

研修 2 （若手・中堅合同）実践報告「コロナにおける私学の取組」（講師／田原俊典・修道中学高等学校校長）

田原俊典・修道中学高等学校校長は、冒頭、「新型コロナウイルス等の感染症は今後も人間社会につきまとうものとして考え、学校教育はどうなるのか、皆さんと一緒に考えてみたい」と述べ、私学としてコロナ禍に対応したこととして、感染者差別を防ぐため、校長メッセージを全校生徒に向けてテレビ放送で伝えたこと、広島県教育委員会の決定を待たず、国の要請に従い学校休業としたこと、2019 年よりオンライン授業に即対応できる環境が整っていたことなどが報告された。分散登校を独自に実践したり、模擬的な学校休業日を設定したりするなど、強いリーダーシップと盤石のリスクマネジメントについてユーモアを交えて紹介された。

東日本会場では、グループに分かれてコロナ禍における各校の取組事例や情報交換をする時間を設け、参加者は他校の取組について熱心に聞き入っていた。最後に、教育の新しい形態としてリモート教育はさらに可能性を拡大していく必要があるが、そもそも教育活動とはその属性として「密」の要素を持っている点を看過すべきでないこと、コロナ対策も大切な教育要素であること、私学とは主体的であるべきだということ、の3点が問題提起として投げ掛けられ、「コロナをきっかけに、誰かを標的にして攻撃する社会ではなく、他者を想い、許し合える寛容な社会をつくっていくことが大切であり、他者への想像力を涵養することこそ、私学の使命である」と報告が結ばれた。

研修 3（若手） 講義とワークショップ「チーム学校と若手教員の役割」（講師／広石英記・東京電機大学副学長）

研修 3 より若手教員と中堅教員が分かれてのプログラムとなり、若手教員を対象に広石英記・東京電機大学副学長による講義とワークショップ「チーム学校と若手教員の役割-レジリエンスを鍛える-」が行われた。若手教員がチーム学校の頼れるメンバーになることを目標に、若手教員への期待と役割や求められるフォロワーシップについて解説された。

想定外のコロナ禍で問われた学校教育とは、それまで前提とされていた直接的な関わり（対面）が強制的に変更（休校、課題提出、オンライン）されたことにより、「かかわり方の問い直し」が意識化されたことにあるとし、学校のレジリエンスとは、授業の創意工夫や行事の運用変更を厭わず、学びを止めないことであるとした。また、教師のレジリエンスについては、BRITE（B：Building Resilience＝問題を解決する経験、R：Relationship＝周囲との良好な関係性、I：Well-Being＝心の充実を図る、T：Taking Initiative＝自らの成長を目指す、E:Emotion＝感情に向き合う）のフレームワークを基に解説され、周囲との

関係性の中で育まれる発展的な資質・能力・スキルであり、肯定的な自己意識、主体性、他者との温かな情緒交流を伴った関係性、楽観性などが相互作用的に働いて育まれるものであるとした。最後に、参加者はワークシートに沿って自身を振り返り、今後の教職生活で活かせる知恵や教訓を考えることで教師個人としてのレジリエンスについて理解を深めた。

研修 3（中堅） 講義とワークショップ「著作権をめぐる私学の課題-ICT 活用教育と入試問題ー」

（講師／大和淳・福岡教育大学教育学部教授）

中堅教員を対象に、大和淳・福岡教育大学教育学部教授による講義とワークショップ「著作権をめぐる私学の課題―ICT 活用教育と入試問題―」が行われた。予め配付されたクイズ形式の「著作権意識してるか調査」で著作権が身近なものであることに気づくようにした後、学校教育と著作権の関わりについて詳しく解説された。

東日本会場では、各校の著作権に関する取組について情報交換する時間を設定し、参加者は他校の取組事例に興味深く聞き入っていた。

生徒に対して著作権を指導することに関しては、「中学校学習指導要領解説 音楽編」の中から、音楽が知的財産であることに気づくことが著作物や著作者を尊重する態度の形成につながり、ひいては文化の継承、発展、創造を支えていることの理解につながるという部分を紹介し、それが教員に忘れられがちであること、そしてこのことは、中学生に対してだけ、または音楽の教科にだけ必要なのではなく、子どもから大人まで、文化的活動に触れるものすべてに必要な考え方であることなどが説明された。最後に、著作権教育を通じて身に付けることが期待されているのは、個々の行為が違法かそうでないかといった法解釈の知識ではなく、文化的な所産が創られ、伝えられる過程に一人一人が何らかの形で関わり、影響を与え合っていることを想像できるようにする資質ではないかとまとめられた。

研修 4（若手） 講義とワークショップ「主体的・対話的で深い学びとICT」

（講師／今野貴之・明星大学教育学部准教授）

研修2日目のプログラムは、研修3と同様に若手と中堅が分かれてスタートし、若手教員向けには今野貴之・明星大学教育学部准教授による講義とワークショップ「主体的・対話的で深い学びとICT」が行われた。カードを用いたアイスブレイクの後、終始テンポの良い時間運びで参加者は集中しつつ楽しみながら参加していた。本研修の目的を「主体的・対話的で深い学び」の意味を理解できること、ICTを用いた教育のメリットを説明できること、と設定された上で、主体的な学びには学習活動の見通しを明らかにすること、対話的学びには、情報収集を行い対話する双方の背景（状況）が見えていること、深い学びには「点」ではなく「線」で児童生徒の学びをつなげることが、いずれも肝要であると解説された。

ICTを活用することについては、まずは授業以外での使用から始め、次の段階として授業で電子黒板など教師が機器を扱い、最終段階として生徒が一人一台のタブレット端末を扱うといった順番が適当であるとされ、特に日々の授業でICTを用いるには、しっかりした授業設計が必須であるとされた。ICTは、授業のどの場面でも用いることは可能であるが、それ故に ICT を用いる目的は何かを明確にすることがより重要であると強調した。「主体的・対話的で深い学び」とは非常に上位概念であり、現場での実現には時間を要することは否めないが、各所で紹介されている事例からは与り知れないたくさんの試行錯誤と、繰り返しの集積がある。自身の授業を振り返り、児童生徒たちにどのように成長してもらいたいのか、そうしたビジョンをもつことが、教育活動の原点になるとまとめられた。

研修 4（中堅） 講義とワークショップ「チーム学校と中堅教員の役割」（講師／広石英記・東京電機大学副学長）

中堅教員対象のプログラムとして、広石英記・東京電機大学副学長より「チーム学校と中堅教員の役割ーレジリエントなスクール・マネジメントー」が行われた。中堅教員とは、教員生活 40 年として、人生計画における中間評価の時期であり、管理職と若手教員との間で、組織の要（結節点）の役割が期待される存在であるとし、学校では複数の分掌を担当する業務の実質的リーダーで、複雑な課題が集約するが、自身の教育観を現場に反映できる立場でもあり、学校が機能するために大変重要になると説明された。山本五十六の言葉を引用し、俯瞰的に仕事を見つめながら、若手を育てる意識を持つことが大切であるとした。コロナ禍や他の想定外の困難な状況下においても、レジリエンスの基本は備えと構えであり、想定外の事態に学校が適切に対応し、

正常に機能する（学びを止めない）ためには、レジリエントなマネジメントが必要であること、困難な状況や想定外の事態の中でも、教師が生徒に適切に関わるために教師はレジリエントなマインドが必要であることなどが示された。

さらに、教育目標の明確化とビジョンを共有し、プロセスを設計することで「チーム学校」のベクトルが同じ方向を向き、課題解決に大きな一歩となるとして、ワークでは、ロジックツリーを用いて、具体的な事象を例に課題の特定とプロセスの設計を行い、研修5に向けた演習が行われた。

研修 5（若手・中堅合同） 講義とワークショップ「レジリエンスなスクール・マネジメントへの挑戦」

（講師／広石英記・東京電機大学副学長）

両研修会のまとめとして、広石英記講師による研修5「レジリエントなスクール・マネジメントへの挑戦」が行われた。若手教員と中堅教員が、研修 4 までに学んだ内容を持ち寄り、中堅教員のリードによって合同のワークに取り組む、といった内容であり、GIGAスクール構想で予想される学校の具体的事象を例に、中堅教員は教務主任、若手教員は授業担当者として、「新入生全員に購入させたものの、学校で利活用が進んでいないノートPC」の活用促進、ICTを活用した「主体的・対話的で、深い学び」の実現を進めるプロセスの立案を命じられたという想定で、ワークを行った。発表では、いずれのグループも充実した議論がなされたことが伺え、組織と教師のレジリエンスが児童生徒のレジリエンスを育むとして、2 日間にわたるプログラムを結んだ。

閉会式

両研修会合同の閉会式においては、各運営委員長（須藤勉・東日本運営委員長／西山啓一・西日本運営委員長）より講評があり、「研修は気づきや学びのきっかけを提供するに過ぎないが、ぜひ勤務校に戻った後も、本研修会で学んだことを積極的に活用し、教育活動を豊かにしていってもらいたい」とメッセージが送られた。

参加者アンケートより（各研修プログラムについて寄せられた感想・意見等）

研修 1・講義（若手・中堅合同）【平方邦行講師】

〇Z 世代が主となる時代に向けて 21 世紀型教育がいかに必要で、どうつくっていくかのヒントを得られた。（中堅・東）

〇世界や日本の教育が現在向かっている方向を知り、私学が今後どこに向かうべきか考えることができた。（若手・東）

研修 2・実践報告（若手・中堅合同）【田原俊典講師】

〇私学だからこそできる取組や姿勢を学ぶことができた。（若手・東）

〇コロナ禍の対応だけでなく、学校の教育活動も非常に特徴的で、新たな考えや視点をいくつも得られた。（中堅・西）

研修 3・講義とグループワーク（若手）【広石英記講師】

〇海外の学校における探究型プロジェクトの事例が紹介され、広い視野で教育のあり方を学ぶことができた。（若手・東）

〇教員生活を長く、しっかりと続けていく上で、必要となる力がよく分かった。（若手・西）

研修 3・講義とグループワーク（中堅）【大和淳講師】

〇著作権の基本的な考え方が分かり、今まで誤解していたことが多いと気づかされた。（中堅・東）

〇ICT 教育が推進されている今、しっかりと知識をつけておかなければいけない内容だと感じた。（中堅・西）

研修 4・講義とグループワーク（若手）【今野貴之講師】

〇主体的、対話的で深い学びは何かという本質的な部分の話を分かりやすく伝えてもらった。（若手・東）

〇ワークで ICT 活用方法を知ることができ、授業改善につながる内容が多く、有意義な研修であった。（若手・西）

研修 4・講義とグループワーク（中堅）【広石英記講師】

〇具体的にグループワークを行うことで、今後何かあった際にも教わったやり方で進めていけると思った。（中堅・東）

〇リスクマネジメントの方法論を実践形式で理解することができた。（中堅・西）

研修 5・講義とグループワーク（若手・中堅合同）【広石英記講師】

〇2 日間で学んだことの総括にふさわしい、素晴らしいものだった。（若手・東）

〇経験年数の異なる先生と協働することで、新たな気づきがあり、より実践的な内容で考えることができた。（若手・東）

研修会の運営面について

〇コロナ禍でありながら、その対策をとって、リモートではなく対面で行うべき内容であったと思う。（中堅・東）

〇感染対策も細心の注意を払われ、細部にまで丁寧に行き届いた対応に感謝する。（若手・東）

都道府県別参加者数

◇若手教員（初任者等）全国研修会【東西総合】

No.	都道府県	参加者数	No.	都道府県	参加者数	No.	都道府県	参加者数
1	北海道	1	17	石 川	4	33	岡 山	0
2	青 森	0	18	福 井	0	34	広 島	2
3	岩 手	0	19	山 梨	0	35	山 口	1
4	宮 城	0	20	長 野	0	36	徳 島	0
5	秋 田	0	21	岐 阜	0	37	香 川	0
6	山 形	0	22	静 岡	0	38	愛 媛	0
7	福 島	0	23	愛 知	3	39	高 知	0
8	新 潟	0	24	三 重	0	40	福 岡	2
9	茨 城	1	25	滋 賀	1	41	佐 賀	0
10	栃 木	0	26	京 都	2	42	長 崎	2
11	群 馬	0	27	大 阪	7	43	熊 本	0
12	埼 玉	2	28	兵 庫	0	44	大 分	0
13	千 葉	5	29	奈 良	0	45	宮 崎	0
14	神奈川	0	30	和歌山	0	46	鹿児島	0
15	東 京	8	31	鳥 取	3	47	沖 縄	0
16	富 山	0	32	島 根	0			
						計		44

◇中堅教員研修会【東西総合】

No.	都道府県	参加者数	No.	都道府県	参加者数	No.	都道府県	参加者数
1	北海道	0	17	石 川	3	33	岡 山	0
2	青 森	0	18	福 井	3	34	広 島	3
3	岩 手	0	19	山 梨	0	35	山 口	1
4	宮 城	1	20	長 野	0	36	徳 島	0
5	秋 田	0	21	岐 阜	0	37	香 川	0
6	山 形	1	22	静 岡	0	38	愛 媛	0
7	福 島	0	23	愛 知	3	39	高 知	0
8	新 潟	0	24	三 重	0	40	福 岡	0
9	茨 城	1	25	滋 賀	9	41	佐 賀	0
10	栃 木	2	26	京 都	0	42	長 崎	2
11	群 馬	0	27	大 阪	2	43	熊 本	0
12	埼 玉	0	28	兵 庫	0	44	大 分	0
13	千 葉	3	29	奈 良	0	45	宮 崎	0
14	神奈川	4	30	和歌山	0	46	鹿児島	0
15	東 京	3	31	鳥 取	0	47	沖 縄	0
16	富 山	0	32	島 根	0			
						計		41

令和３年12月14日